

観点別学習状況の評価と評定への総括について

基礎的・基本的な内容の確実な習得を図ることを重視していることから、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価（いわゆる絶対評価）を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として、児童の学習の到達度を適切に評価していくことが重要である。

評価が目標に準拠した評価であるので、目標、評価の観点を再確認し、児童の実態に応じて指導計画、評価計画を見直す必要がある。

1 目標と評価の観点及びその趣旨の理解

理科の目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

(1) 評価の観点及びその趣旨

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
自然に親しみ、意欲をもって自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然を愛するとともに生活に生かそうとする。	自然事象から問題を見だし、見通しをもって事象を比較したり、関係付けたり、条件に着目したり、多面的に追究したりして調べることによって得られた結果を考察して、自然事象を科学的にとらえ、問題を解決する。	自然事象を観察し、実験を計画、実施し、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、それらの過程や結果を的確に表現する。	自然事象の性質や規則性、相互の関係などについて理解し、それらについての考えをもっている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
自然事象への関心・意欲・態度	自然事象に興味・関心をもって追究し、生物を愛護するとともに、見いだした特性を生活に生かそうとする。		自然事象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	
科学的な思考	自然事象を比較しながら問題を見だし、 <u>差異点や共通点をとらえ</u> 、問題を解決する。	自然事象の変化とその要因とのかわりに問題を見だし、 <u>変化と関係する要因をとらえ</u> 、問題を解決する。	自然事象の変化とその要因との関係に問題を見だし、 <u>条件に着目して計画的に追究し、量的変化や時間的変化をとらえ</u> 、問題を解決する。	自然事象の変化とその要因との関係に問題を見だし、 <u>多面的に追究し、相互関係や規則性をとらえ</u> 、問題を解決する。
観察・実験の技能・表現	簡単な器具や材料を見つけたら、使ったり、作ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を分かりやすく表現する。		問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に表現する。	
自然事象についての知識・理解	生物の成長の様子や体のつくりにはきまりがあることや、光、電気及び磁石にはきまった性質があること、太陽と地面の様子には関係があることなどを理解している。	動物の活動や植物の成長の仕方は環境条件と関係があることや、空気、水、電気などにはきまった性質や働きがあること、月や星の位置や水が変化していることなどを理解している。	生命は子孫に受け継がれて連続していることや、物の状態は与える条件によって規則的に変化すること、気象現象や流水の働きには規則性があることなどを理解している。	生物は相互に類似した体のつくりと働きをもち環境とかわって生きていることや、物に外から条件を加えると物の性質や働きが変わること、土地のつくりと変化にはきまりがあることなどを理解している。

・「評価の観点の趣旨」と「学年別の評価の観点の趣旨」の関連をふまえ、4年間を見通して学習指導要領の学年の内容のまとめ(単元)として、指導計画、評価計画を作成する。

## 2 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括

### (1) 単元における観点ごとの評価の総括

指導計画・評価計画の作成

- ・ 児童の実態を指導内容に照らして事前に把握する。
- ・ 学校の指導計画をもとに児童の実態に応じて改善する。

【評価計画表】 4年「電気のはたらき」

次	時	学習内容	自然現象への関 心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然現象につい ての知識・理解	評価方法
第 一 次	1	おもちゃの自動車					発言・行動観察
	2	電気の働きで走る自動車					行動観察・作品
	3	電流の向き					発言・記録
第 二 次	11	光電池で動くおもちゃ					行動観察・作品
	12	電気の働きのまとめ(1)					レポート
	13	電気の働きのまとめ(2)					発言・ノート

個別の評価記録用紙等の作成

- ・ 改善した指導計画をもとに、具体的評価規準と次時以降に行う指導を記入する用紙などを作成する。
- ・ 単元の総括を行う際に、次単元の指導に向けての指導の方向や個のよさを明確にする。

【個別の評価記録】 4年「電気の動き」 4年5組 9 氏名 藪田 みなみ

次	時	学習内容	自然現象への関 心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然現象につい ての知識・理解	コメント
第 一 次	1	おもちゃの自動車	A				
	2	電気の働きで走る自動車			B		
	3	電流の向き		C			電流の向きを常に矢印で図示させる
第 二 次	11	光電池で動くおもちゃ	A		B		
	12	電気の働きのまとめ(1)				B	
	13	電気の働きのまとめ(2)		C			光電池の活用事例の写真準備
単元の総括			A	C	B	B	
次単元の指導のために				関係付ける視点を明確にできるようにする。	回路を流れる電流の向きと強さを関係付けさせる。		

【個別の評価記録】 4年「電気の動き」 4年5組 18 氏名 岐阜 太郎

次	時	学習内容	自然現象への関 心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然現象につい ての知識・理解	コメント
第 一 次	1	おもちゃの自動車	B				
	2	電気の働きで走る自動車			B		作成だけでなく回路を意識させる
	3	電流の向き		B			
第 二 次	11	光電池で動くおもちゃ	A		B		
	12	電気の働きのまとめ(1)				A	
	13	電気の働きのまとめ(2)		B			
単元の総括			A	B	B	A	
次単元の指導のために					誰にとって分かりやすいかを意識させる。		

(2) 学期末における観点ごとの評価の総括

- ・ 学期末における観点ごとの評価の総括をする場合、何のために、何に基づいて、どのように評価するかを明確にしておく必要がある。
- ・ 通知表に評価の観点を授業との関連、指導との関連などから通知表に記載する評価の観点について検討する。

3 学期制で年間単元配列表が下記のような場合

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
単元名 (指導時間)	あたたかくなると(10)		暑くなると(9)		すずしくなると(6)			寒くなると(6)			
	電気のはたらき(13)				月と星(5)		もののかさと力(6)		もののかさと温度(6)		ものあたたまりかた(11)

3 観点別学習状況の評価から評定への総括

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意することが望まれる。その際、観点別学習状況の評価を、どのように評定に総括するか具体的な方法等については、各学校において工夫することが望まれる。

(指導要録の改善等についての通知より)

(1) 基本的な考え方

観点別学習状況の評価	
十分満足できる	A
おおむね満足できる	B
努力を要する	C

  

評定	
十分満足できる	3
おおむね満足できる	2
努力を要する	1

関心・意欲・態度	思考	技能・表現	知識・理解		評定
A	A	A	A		3
⋮	⋮	⋮	⋮		
B	B	B	B		2
⋮	⋮	⋮	⋮		
C	C	C	C		1

上記の場合を除き、各観点ごとのA、B、Cが決まれば、評定も必然的に決まるものではなく、様々な組合せが考えられる。

(2) 学年末における観点ごとの総括と評定への総括

各学期ごとに集計した結果について、年間の総括をする。

	氏名	学期			観点別の総括	評定
		観点	1 学期	2 学期		
1	岐 阜 太 郎	関心・意欲・態度	A	A	A	3
		科学的思考	A	A	A	
		技能・表現	A	B	A	
		知識・理解	A	B	A	

単元ごとに集計した結果について、年間の総括をする。

	氏名	単元										観点別の総括	評定
		観点	あたたかくなると	暑くなると	寒くなると	電気のはたらき	月と星 冬の星	もののかさと力	もののかさと温度	ものあたたまり方			
1	岐 阜 太 郎	関心・意欲・態度	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	3
		科学的思考	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
		技能・表現	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	
		知識・理解	A	B	B	A	B	A	A	B	A	A	